

中国の「西部開発」を視察して

去る十月七日から十六日までの十日間、第九次全国市長会代表日中友好訪問団の一員として中国へ行ってきました。北は北海道の北広島市長、南は沖縄の石垣市長まで、各地方から選ばれた六人のメンバーと共に北京、西寧、西安、成都、蘇州と主に中国大陸の西部を視察してきました。

私自身は三回目の中国訪問となります。前回から十数年間のブランクがあったわけですが、その間に中国は大きく変わっていました。いまや国営企業は民営化され「社会主義市場経済」が進み、すさまじいまでの発展を遂げています。

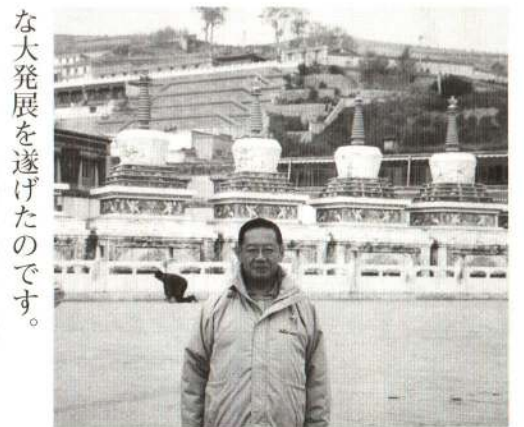
中国の広大な国土のうち沿海部



はわずかで、残りは内陸部となっています。沿海部の地域は、私の予想以上に高度な都市化が進んでいました。西部地域はいずれも中国の内陸部であり、自然環境がすばらしく、これから発展が期待される地域です。今回の視察研修はこの西部地域の開発がメインでした。

今の中国は、言わば十九世紀、二十世紀、二十一世紀が混在しているようなものです。荷車や自転車、荷台で荷物を運んでいる人がいるかと思うと、その一方では輸入車に乗り、携帯電話で通話している人もいます。麦を手で刈っている人もいれば、沿海部では、機械化が進んでいて日本と全く変わらない光景でした。同じ国の中でこんなにも違いがあるというのは大変なことです。中国では国家戦略として、地域格差の是正を掲げていて、この中で西部開発は国家発展への基礎、起爆剤になると考えられています。

私には中国の西部開発はアメリカのフロンティア開発と二重写しに見えます。アメリカは移民が東海岸に上陸し、西へ向かってどんどん開発していきました。そして西海岸までたどり着くとともにフロンティアは消滅し、今日のような



な大発展を遂げたのです。

日本にも地域格差の問題があります。地方と大都市との格差の問題です。すでに都市基盤が整備された大都市の人の中には、もう公共事業はいらないとか、高速道路は必要ないから地方もやめたらという声もありますが、我々には高速道路はないし、都市基盤の整備も遅れています。地方における公共施設整備の遅れは、中国ほどではありませんが、歴然としています。

中国では西部開発を国家戦略として行っているのに対し、日本ではなぜ「発展途上県」を「お荷物」と考えるのかと思うと不思議でなりません。なぜ悲観的に考えるのでしょうか。むしろ積極的に、発展途上県は日本の中の西部地域だ、フロンティアだ、とは考え

られないものでしょうか。格差是正のためにいろいろな目標をたててやっていくとか、なぜそのようなことができないのでしょうか。中国を見てみると、自分たちも負けないようにやらなくてはというエネルギーがわき上がって来るのを感じます。規模に差はありますが、フロンティアスピリットを持って頑張りたいと思います。

小畑 元

募集

市制施行50周年記念

第20回大館市民号

市長ともに行く

「気仙沼市交流と海の幸満喫の旅」とき

12月20日(木)、21日(金)1泊2日  
コース

大館↓花と泉の公園ベゴニア  
ガーデン(見学・昼食)↓登米(教育  
資料館・旧水沢県庁記念館)↓  
道の駅・もくもくランド↓気仙  
沼・ホテル観洋(気仙沼市との  
交流会)・海の市(お買物)・海  
と貝のミュージアム↓えさし藤  
原の郷(昼食)↓大館

旅行代金 33,000円

募集人員 120人

締め切り 12月10日(月)

観光物産課

☎49-3111 (内線283)